

第54回(2024年度)地域安全学会研究発表会(春季)に参加しました(2024/5/24-25)

テーマ：災害科学

場 所：小千谷市総合産業会館サンプラザ（新潟県小千谷市）

5月24日（金）～25日（土）の2日間、地域安全学会の春季研究発表会が小千谷市総合産業会館サンプラザを会場に開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。1日目は能登半島地震特別セッション、一般論文セッション（研究発表会）、総会が、2日目は中越大地震20年事業・公開シンポジウム、巡検が開催されました。

当研究所からは、村尾修教授（国際防災戦略研究分野）が学会会長として開会挨拶・総会の議事を務め、韓国災難情報学会との協定を締結しました。また、越村俊一教授（災害ジオインフォマティクス研究分野）は大会オーガナイザーをつとめるほか、全行程の総合司会を、佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）が能登半島地震特別セッションでの報告とシンポジウムのディスカッションコーディネーターをつとめました。当研究所からは今村文彦教授（津波工学研究分野）も会場参加しました。一般論文セッションでは、村尾教授と佐藤翔輔准教授が登壇し、合計で9編の一般論文（うち、筆頭著者2編）の研究発表を行いました。毎年、春季研究発表会では、優れた研究発表に対して優秀発表賞（対象：指導を受ける立場にある40歳未満の者）が数件選出されますが、全5件のうち1件の受賞者は当研究所の教員が指導し、共著になっているものでした。発表論文は次の通りです。

なお、村尾教授は、会長・副会長を6年間つとめ、満期にともない本大会をもって、任期を終えました。任期中は、コロナ禍、関東大震災100年、能登半島地震の発生など、様々な困難・事業がありましたが、学会の継続的発展に大きく貢献しました。

【能登半島地震特別セッション】

（※下線は当研究所の構成員）

佐藤翔輔：対口支援におけるA県-a町、B市-b市の場合

【一般論文】

若木望、佐藤翔輔、今村文彦：水害常襲地域におけるシビックプライドに関する基礎的研究

三上雄大、佐藤翔輔、今村文彦ほか：ウェアラブル歩行型VRを用いた津波避難行動分析ツールの試作

松崎圭、村尾修ほか：2024年能登半島地震後の金沢市避難所における運営実態と課題に関する研究

松川杏寧、北村美和子ほか：LGBTQ当事者への災害時支援の実践—能登半島地震を事例に—

村尾修、目黒公郎ほか：NPO法人地域防災推進機構における「防災勇士トリプルウィング」の制作と防災教育活動

金山侑真、村尾修ほか：東日本大震災後の災害危険区域における土地利用の変遷に関する研究

※優秀発表賞

秋元康男、佐藤翔輔、今村文彦：レジリエンスの実現と標準化を見据えた防災備蓄手法に関する研究

吉田悠起、佐藤翔輔、今村文彦ほか：レジリエンスの実現と標準化を見据えた防災備蓄手法に関する研究

佐藤翔輔、今村文彦：災害伝承施設の機能強化に関するアクションリサーチ：みやぎ東日本大震災津波伝承館を対象にして

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）

越村俊一（災害ジオインフォマティクス研究分野）

佐藤翔輔（防災社会推進分野）



会長挨拶（村尾教授）



総合司会（越村教授）



発表の様子（松崎圭氏）



発表の様子（金山侑真氏）



優秀発表賞受賞の金山侑真氏と村尾教授



韓国災難情報学会との協定締結



巡検の様子



巡検の様子



公開シンポジウムの様子（佐藤翔輔准教授）